協同総研　関西地域研究集会　「障害のある人の働く場づくりと協同労働」

ポスターセッション

障害のある人の働く場づくり

―現場からの実践報告―

日時：11月6日（日）13:00～17:00
会場：エル・おおさか　11F　大会議室

昨年11月6日（日）の協同総研関西地域集会は、「障害のある人の働く場づくりと協同労働」をテーマとして、NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークにご協力をいただき開催しました。先月号でご報告した基調座談会に引き続き、地域で協同の仕事おこしの実践を行っている6人の方々より活動の内容等についてポスターにまとめたものをそれぞれご報告いただき、その後個別に質疑応答を行って交流を深めました。

障害者と健常者が共に経営を担い、共に働く事業所づくり

北川恭子（豊能障害者労働センター（箕面市））

北川と申します。よろしくお願いします。

こちらは事務局次長の平田さんです。

先ほどの座談会のお話をお伺いしていて、今ある労働観というものを変えていくことなのだということを思いました。働くことは、人と人とがつながって、楽しいことでもあって、自分自身も何かできるようになっていくことがあり、そんな中で障害者と健常者が協同で仕事ができることになるのだろうと思いました。

私はこの3月に協同総合研究所の会員になったばかりです。6月に、事務局長の菊地さんが私たちの事務所に見学にきて下さっ

て、『協同の発見』という所報に載せていただきました。

豊能障害者労働センターの事業について

豊能障害者労働センターは、粉石鹸の袋詰めと販売を初めての仕事として、設立して23年目になります。スタッフは55名。そのうち障害者が33名です。重度の障害があっても労働する権利はあり、障害者と健常者が共に仕事をして様々な事業を起こして、みんなの給料をつくりだしています。障害者が当たり前に町の中で暮らしていくために、障害者の働く場を広げて、職種開拓・職域拡大を目指し、市民の方々を巻き込みながら活動をしてきました。

主な事業内容は、障害者自身がデザインをしたTシャツ・トレーナー・エプロンなどのオリジナル商品の通信販売。リサイクル事業としてショップを5店舗とバザーなどの様々なイベント。お好み焼き・定食屋さん。公的施設での福祉ショップ。大規模商業施設での店舗。点訳事業や月一回約27,000部の機関紙の発行などを行っています。

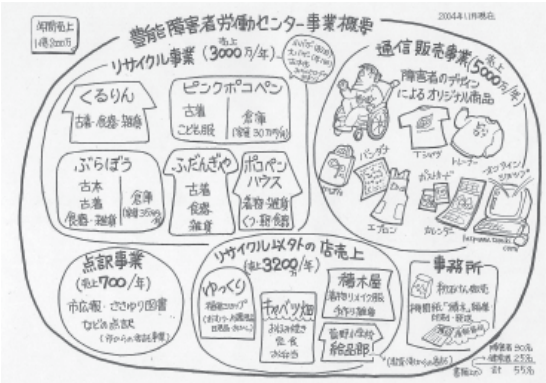
私たちの運営は、私たち自身の事業収入と、障害者を雇用する一般企業に出る国の助成金と、箕面市単費の制度であり、15年前に財団法人箕面市障害者事業団と言うのが設立されて、その中の障害者事業所雇用助成制度の助成金を受けています。この制度は、障害者自身の手に渡るお金であり、障害者自身が経営に参加することが義務付けられています。障害者の所得を作り出す障害者事業所にでるものです。

障害者の手にわたる助成金：箕面市の障害者雇用助成制度

今日は、この箕面市の障害者雇用助成制度を知っていただきたいと思います。滋賀県では県レベルで社会的起業・事業所が認知されて動いていますが、箕面市の場合は設立当初から箕面市行政とともに、福祉の枠を超えて、労働という視点を持って活動してきました。しかし、近隣の市へは広がらず、また箕面市行政も最近は、社会的雇用より一般就労に力を入れてきています。障害者自身の手にわたる助成金が府や国レベルでひろがっていくことをすごく望んでいます。共同連・滋賀県の団体とともに、一緒に運動をしていければと思います。

障害者も健常者もみんなで分け合うお給料

これは、去年の決算を絵にしたものですが、年々落ち込んでいて苦しい経営状況です。リサイクル事業は、元々は阪神淡路大震災のときに救援物資のターミナルとして、全国各地から物資が届く中で、バザーをして救援金を作りだした後に、リサイクルショップを開店した経緯があります。5店舗の売上げとイベントとで約2,000万円の売



上げがあります。年々集まるリサイクル品の質が悪く、商品にならない物がかなりあり、5店舗の店つくりでの差別化をしながら収益をあげるのはかなりきついです。店や二つの倉庫にもかなりの家賃がかかります。しかし、障害者自身が店の中で市民の人たちと出会うことによって、いろんな形で人や町を変えていけると思います。店がいろんな出会いの場所になっています。リサイクル以外の店の売上げは約3,200万円。公共施設内の福祉ショップ「ゆっくり」。ここは、おむつの販売と配達、衣料品・雑貨などを販売しています。お好み焼き・定食屋「キャベツ畑」は、学校や近くのケーキ屋さんや障害者団体への配食も行っています。大型商業施設での店「積木屋」は大阪府の先導的ＣＢ創出支援事業グループに選ばれ、立ち上げを支援して頂きました。中高年の方がいろいろな形で協力してくださっていて、リサイクルの着物をリメイクして格安で販売しています。また、他店の商業店舗との差別化するために、地域や他市の障害者団体の商品を置いています。年中無休10時から20時までと店舗運営はなかなか厳しいです。学校での「給品部」は子どもたちに文房具を販売しています。始業まえと20分休みの営業でほぼ障害者スタッフが担っています。学校への「障害者が働くこと」の啓蒙活動の一つとしてあります。事業全体の売上げは1億円ちょっとです。基本給料は障害者が9万から13万円。健常者が週5日勤務で12万円。週6日で13万5,000円です。みんなで給料を分け合いながらここ数年昇給もなく、ボーナスもない状態でやっています。

23年目を迎えて思うこと

今、23年目を迎えていて、地元の人たちにもすごく助けてもらってて、基本的に事業を起こし、給料を手にするという形を保ってこられましたが、毎年、障害者を受け入れて事業をする中で行き詰まりを感じたり、健常者メンバーが入れ替わったりする中で、障害者と働くことをどのように伝えて来られているのか等、色々と問題を抱え岐路にたっています。内部からは法人化のはなしもあり、NPOや企業組合の勉強をする中で、協同労働のための協同組合を知りました。社会が作り出して弱者にしている、高齢者の問題・障害者の問題・ニートの問題が根っこで繋がっていることや、それぞれの現場でいろいろと解決していくなかで、つながって、それぞれの仕事起こしにしても単独ではなく、一緒に考えていけるように思います。いろいろな活動をされている方々に出会う中で、自分たちがこれから先、どのような方向にいくのかも明確になっていくように思います。

箕面市の障害者雇用助成制度のことについては、グループセッションの時にお話出来たらいいかなと思います。